

## 第 23 回多手山プロジェクトの実施結果について

### 1 趣 旨

本プロジェクトは、町内有志の方々の参加のもと、富山地方鉄道立山線を利用して町内を訪れる観光客等に対し手を振ることで、笑顔と元気でおもてなしを行うもの。通算 23 回目を数える今春は、昨年度に引き続き約 1 週間にわたり開催した。

### 2 実施概要

- (1) 開催期間 令和 8 年 4 月 15 日から 4 月 21 日まで（前年度比 + 3 日）
- (2) 場 所 富山地方鉄道立山線沿線
- (3) テーマ ぬくもりに ふれてみるハル 2026

### 3 実施結果

- (1) 参加者数 延べ 1,170 人（前年度比 + 68 人）
- (2) 参加団体  
[小学校] 立山北部小学校、立山中央小学校、釜ヶ淵小学校、立山小学校  
[保育所等] 下段保育所、岩嶺保育所、かがやき保育園、むつみ幼稚園  
[各種団体] 「釜ヶ淵驛」をよくする会、浦田寿会、千寿ヶ原自治会、立山りんどう会、立山製紙(株)、(株)北陸銀行立山支店、(一社)立山町観光協会、(一社)立山子育て支援センター、立山舟橋商工会青年部、立山町商業協同組合、立山町土地改良区、国土交通省北陸地方整備局立山砂防事務所、富山県立山カルデラ砂防博物館、立山町役場
- (3) 当日の様子



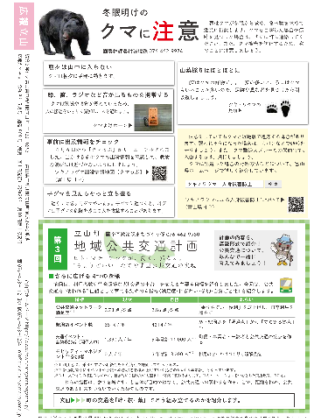
## 広報たてやまへの立山町地域公共交通計画に関する記事の掲載について

### 1 趣 旨

立山町地域公共交通計画の策定内容について広く周知し、公共交通に対する関心を高めることを目的に、立山町の全戸に配布される町広報紙に連載形式で特集記事を掲載するもの。

### 2 実施概要

- (1) 掲載号 広報たてやま令和 8 年 3～5 月号
- (2) 特集タイトル 立山町地域公共交通計画
- (3) 掲載内容
  - (a) 第 1 回（令和 8 年 3 月号）
    - ・ 計画のポイントについて紹介（最適化・共創・核づくり）
  - (b) 第 2 回（令和 8 年 4 月号）
    - ・ 計画の主要指標について紹介①
  - (c) 第 3 回（令和 8 年 5 月号）
    - ・ 計画の主要指標について紹介②
- (4) 配布物 別紙のとおり



- (5) 配布数 9,352 戸（町内の全世帯）

### 3 その他

今後も広報への掲載を継続していく予定。

第1回

立山町 企画政策課まちづくり係 076-462-9980

# 地域公共交通計画

ヒト・マチ・アシタが、動く、重なる。  
“ちょうどいい” たてやま型公共交通の実現

計画の内容を、  
連載形式で紹介！  
公共交通について、  
みんなで一緒に  
考えてみましょう！



## ■ 存続のために“形を変える”公共交通のアップデート宣言

今、公共交通は、利用者が減る一方で、物価高騰の影響を受け、事業の赤字が大きくなっています。「今の形のまま頑張る」だけでは、維持が難しいことから、町は、公共交通存続のための「地域公共交通計画」を策定しました。今回は、計画のポイントを3つ紹介します。



Point  
**01** ムリとムダを減らして、必要なところに力を残す（最適化）

限られた人・お金で続けるため、町営バスのダイヤや車両サイズの見直し、ドライバー配置の効率化などを検討します。利用が少ないところでは、タクシー車両の活用も視野に入れます。さらに、事業者間で協力して運行できないか、共同化の調査・研究も進めます。

Point  
**02** 「使う人」だけでなく「支える人」を増やす（共創）

公共交通は、まちづくりの重要なインフラです。町民・企業などが支え手として参画し、資金面・運営面で一緒につくる仕組みを検討します。学校では、公共交通に親しむ授業の導入を検討し、公共交通利用のきっかけづくりを進めます。

Point  
**03** 駅を「ただの乗り場」から、まちの拠点へ（核づくり）

駅は人が行き交う「まちづくりの核」。カフェ・小売・特産品ブースなどの併設や休憩スペースの可能性を検討し、待ち時間を“価値ある時間”に変えていきます。



公共交通は、通学、通院、買い物、そして運転免許を持たない方の移動を支える、まちの大切な基盤です。今後、計画に沿った「最適化」と「共創」で、立山町に合った“続けられる形”へ、公共交通をアップデートしていきます。

富山地方鉄道全線が**100円で1日乗り放題!**  
詳細は本誌9ページをチェック!



ふるさと納税で地鉄立山線を応援しよう!  
(町民の方もご寄附いただけます)  
詳細はこちら▶



次回▶▶▶ 5年後に向け、公共交通をどう変えていくか。その目標(数値)を紹介します。

### ／日中のスキマ時間に取組みます／

## 登録統計調査員募集中

統計調査員は、国が実施するさまざまな統計調査において、調査対象となる事業所や世帯を訪問して、調査の趣旨や内容について説明するとともに、調査票の配布、回収、点検などを行います。調査の重要性を理解し、積極的に調査活動に取り組んでいただける方を募集しています。

### ■ 募集概要

- 要件** ▶ 20歳以上で町内在住の方(70歳以上の方は要相談)  
▶ 税務、警察、選挙に直接関係する職についていない方
- 期間** おおむね2か月程度(1調査あたり)
- 登録方法** 登録カード\*を提出いただき、面接を行います。  
※役場2階企画政策課にあります。
- 手当** 調査手当と交通費などを支給します(調査の種類や調査対象数によって異なります。)

企画政策課企画広報係  
076-462-9968



4月19日(日)まで

## クマ対策プロジェクトにご支援をお願いします

昨年、町内でクマの目撃や痕跡が過去最多となり、人身被害も発生しました。町では、安心して暮らせる環境を守るため「クマ対策プロジェクト」を開始。ふるさと納税制度を活用した寄附を募集しており、町内・町外在住問わず、ご寄附いただけます(返礼品はありません。)。いただいたご寄附は、放任果樹の伐採や森林整備、鳥獣被害対策など、里山保全とクマ被害を防ぐ施策に活用されます。皆さんの温かいご支援をお待ちしております。

目標金額

100万円



ご支援はこちらから▶  
(ふるさとチョイスHP)

立山町クマ対策プロジェクト 検索



企画政策課企画広報係 076-462-9968

第2回

立山町 企画政策課まちづくり係 076-462-9980  
**地域公共交通計画**

ヒト・マチ・アシタが、動く、重なる。  
 “ちょうどいい” たてやま型公共交通の実現

計画の内容を、  
 連載形式で紹介！  
 公共交通について、  
 みんなで一緒に  
 考えてみましょう！



■数字で見る「5年後のゴール」

第1回では「続けるために形を変える(最適化×共創×拠点化)」を紹介しました。第2回は、計画の“ゴール”を数字で見えていきます。今月号では、主な8つの指標のうち、4つを紹介します。



指標	現状	目標	ねらい
公共交通の利用者数	808,134 人/年	971,107 人/年	利用を増やし、運行の維持・改善につなげる
快適な待合環境(停留所など)	1 か所	5 年間累計 13 か所	待ち時間の負担を減らし、利用しやすくする
利用者1人当たり収支(持続性)	立山線 △436 円/人 町営バス △2,027 円/人	立山線 0 円/人以上* 町営バス 現状維持	利用増と運営改善により、続けられる形を目指す
立山線の乗降者数	2,576 人/日	3,469 人/日	通学・通勤・観光を支える立山線の利用者を増やす

※マイナスの収支からの脱却を目指すものです。

計画では、こうした指標の達成状況を毎年度確認しながら、必要に応じて取り組みを見直していきます。

次回▶▶▶「まちの賑わい/自分ごと化」につながる指標と、駅を拠点にした取組を紹介します。

介護を社会で支え合いましょう  
**介護保険制度について**

介護保険制度は、高齢化や核家族化の進行、介護離職問題などを背景に、介護を社会全体で支えることを目的として 2000年(平成12年)に創設されました。介護サービスを少ない自己負担で利用できるため、ご家族の介護負担軽減や介護を理由とする離職防止につながります。

■介護保険の加入対象は？

40歳以上の方が加入対象となります。65歳以上で介護が必要となった場合や 40～64歳で特定疾病により介護が必要となった場合に介護サービスを利用することができます。介護サービスを利用する・しないに関わらず、40歳以上のすべての方に保険料を負担いただくことで、社会全体で介護を支えます。



関中新川広域行政事務組合介護保険課 076-464-1316

**「立山ブランド」に新たな認定品**

このたび、「立山ブランド」認定品に新たに1品、加わりました。



認定品 立山権現かんもち  
 事業者 農事組合法人食彩工房たてやま

■立山ブランドとは

町内外の有識者で構成する立山ブランド認定委員会で、「立山町らしさ」「信頼性」「市場性」「将来性」の基準をすべて満たすものを認定しています。現在、認定品は全16品です。



立山ブランド認定品一覧▶

立山ブランド

検索



立山ブランド認定品  
 ロゴマーク



# 冬眠明けの クマに注意

圃農林課農村環境係 076-462-9974

春はクマが冬眠から覚め、食べ物を求めて活発に行動します。クマを目撃した場合や痕跡を見つけた場合は、すぐに町に連絡してください。また、クマ被害を防止するため、次のことに注意しましょう。

## 朝夕は山中に入らない

クマは朝夕に活発に動きます。

## 鈴、笛、ラジオなど音が出るものを携帯する

クマは聴覚や嗅覚が優れているため、人の接近をいち早く察知し、人を避けます。



クマよけホーン▶

## 事前に出没情報をチェック

4月6日から「クマつぶ」がリニューアルされました。出かける前にクマの出没情報を確認して、危険な場所には近づかないようにしましょう。

ツキノワグマ出沒情報地図【クマつぶ】▶



## 子グマを見たらそっと立ち去る

近くには必ず母グマがいます。子グマに近づくと、母グマは子グマの危険を感じて人を攻撃することがあります。

## 山菜採りはほどほどに

山菜はクマの好物です。山菜の多いところにはクマもいることが多いので、足跡や糞などを見つけたら引き返しましょう。

ツキノワグマの  
足跡▶



注意をしてもクマと近距離で遭遇する場合があります。襲われそうになった場合は、カバンなどで頭部を守りましょう。また、クマ撃退スプレーも効果的です。入山する方は、携行しましょう。

クマに出遭った場合の対処方法などについて、富山県ホームページで詳しく紹介しています。

ツキノワグマ 人身被害防止

検索

ツキノワグマによる人身被害防止について▶



### 第3回

立山町 圃企画政策課まちづくり係 076-462-9980

## 地域公共交通計画

ヒト・マチ・アシタが、動く、重なる。  
 “ちょうどいい” たてやま型公共交通の実現

### さらに広げる4つの指標

前回は、利用者数や待合環境など「交通の土台」を支える主要4目標を紹介しました。今回は、公共交通を“使われる”仕組として育てるための4指標(満足度・にぎわい・参加・自分ごと化)を紹介します。



指標	現状	目標	ねらい
公共交通ネットワーク満足度 <sup>*1</sup>	2.73点/5点	2.86点/5点	「乗りやすい・便利」を底上げし、日常利用を増やす
駅周辺イベント数	35回/年	42回/年	駅・駅周辺を「通過点」から「立ち寄る拠点」へ
交通イベント・会議参加者(関係人口)	1,390人/年	5年累計11,000人 <sup>*2</sup>	町民・事業者・来訪者と公共交通の接点を作る
モビリティ・マネジメント <sup>*3</sup> 参加者	0人/年	5年累計3,200人 <sup>*2</sup>	利用のきっかけづくりと理解促進

※1 利用者に、乗りやすさや利便性を5点満点で評価してもらうもの。

※2 計画期間中にイベントや会議への参加者を積み上げていく指標のため「5年累計」となっています。

※3 「一人ひとりの移動のしかたが、社会的にも個人的にも望ましい方向に変わるよう促す、コミュニケーションを中心とした交通政策」のこと。

これらの指標は、数字を増やすこと自体が目的ではなく、公共交通への関わりをすることで、距離を縮め、公共交通のある日常をつないでいくためのものです。

次回▶▶▶町の交通を「幹・枝・葉」でどう組み立てるのかを紹介します。